

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初より四ヶ条の理念を掲げて取り組んでまいりましたが、目標があいまいではとの職員会議での意見提言により、より明確な理念づくりへの見直し作業に着手。職員会議や運営推進会議等の関係者にも協力いただき、端的で明確な理念づくりを実施した。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	リーダー会議及びモニタリング等の各種会議を利用した理念の共有と実践に取り組んでいる。リーダー会議及びモニタリング等の各種会議やミーティングを利用し、入居者様に対する介護計画と介護職員による介護実践が理念との係わりを理解されたものとなっているのかを機会あるごとに確認している。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	施設内の掲示はもちろん来所者・一般用としての広報配布も作成している。地域小学校児童・幼稚園児・婦人会員によるグループホーム来訪時や地域の各種イベントへの入居者参加時には広報用の理念配布と説明を行い理念の理解と協力を行うこととしている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	施設所在地が山間地であり地域住民や近隣小学校関係者や児童等との交流が自然に図られており、また施設内での畑作物づくりを通して近所の方にも指導やお手伝いをいたり、相互に作物をおすそわけする等の交流が日常的に図られている。(殆どが地元職員である)	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域密着型として地元小学校・幼稚園の運動会への参加や地域婦人会・ゲートボール会員・民生委員・地域住民等による訪問受入れが頻繁に行われている。今後は、地域住民福祉協議会や地域自主防災組織への参加と係わりを積極的に行うよう、現在法人役員とも協議準備中であり、地域支援事業として独居高齢者や高齢者のみの世帯への支援事業への取り組みについて職員会・運営協議会等でも御意見いただいております。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地区住民福祉協議会による地域支援事業(在宅高齢者見守り事業)等への協力について協議検討中。	○	一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯への安否確認活動を検討中。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	事業所自らが全ての職員の協力により自己評価項目を具体的に確認していく課程の中で、事業所における問題点を共有のものとして、改善への取組も一方的なものにならないよう改善の意義と改善方法も共通理解の中で取り組むこととしている。	○	自己評価や外部評価事業における要改善項目について、職員全員が改善の必要性を理解したうえで改善努力に取り組む。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催し、対象期間内のサービス内容や関係行事、職員研修会の参加状況等について説明や状況報告を行い、それぞれの立場や異なる角度からの意見をいただき、改善や取り組みの必要性の高いものから順次対応しており、サービス向上等に大変役立っている。 <例>■ご利用者の身体機能の維持向上に向けたリハビリの取組についての意見がなされ、翌月よりPTによる月1回のリハ指導を継続実施。■ご利用者の徘徊等への取り組みについての意見がなされ、翌月よりグループホーム地域SOSネットワークとして地域住民の協力による連絡組織を立ち上げ現在も協力住民を募集中。■ご利用者の口腔機能向上と誤嚥防止の観点から不定期ではあるが歯科衛生士による勉強会を開催中。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	総合支所市民課を訪れ、不定期ではあるが情報交換を行うよう心がけている。ゴミ処理問題について協議・自主消火設備の消火用ホースについて情報提供依頼・市管理地の利用についての協議他。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現入所ご利用者様には左記事業の必要な利用者はおいでませんが、制度周知については職場内研修を実施している。	○	今後の左記項目利用者出現を想定し、個々の入居者様の必要性について、常に関係者との連携を心がけるようにしてゆく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法、高齢者虐待防止の基本、要介護施設従事者等による虐待への対応等について施設内資料回覧研修を行い、虐待行為が行われないよう職員相互にこれを見過ごさない職場づくりに取り組んでおります。	○	OFF-JT等の研修会参加についても検討中。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、重要事項説明書等により十分に内容説明を行ないご家族及び本人に納得を頂いたうえで契約締結または契約の解除を行っております。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様の意見が反映されやすい環境・雰囲気づくりを心掛け、管理者・介護職員が日常生活の場面場面で意見や不満、苦情の有無についてさりげなく聴取するなどの工夫を行い、いただいた御意見等についてはミーティング等で協議検討を行い運営に反映されるようにしている。	○	外部者への発出については、ご家族様が来訪の折に対応いただけるよう個別にお願いをし、御協力をいただいきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	各担当介護職員毎に、毎月(生活状況・身体状況・金銭出納簿・スナップ写真等)個々に郵送している。	○	各ご利用者のご家族様からは、ホーム内の生活状況が良く分かり好評をいただいているが、報告事項等についてご利用者ご家族様からの御意見をお聞きし、より良い報告書づくりに取り組んでまいります。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催や御意見箱の設置等、来訪時には苦情について気安く申し出られるように取り組み、アンケートによる個々の御意見聴取にも取り組んでおります。苦情や不満・意見については、全職員がご家族様来訪時にできるだけ申し出やすい雰囲気配慮し、あらゆる方法により聴取する努力を職員相互に心がけるようにしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月リーダー会議及びモニタリング会議に於いて、意見や提言の機会を設けている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	柔軟な体制をカバーする為の職員確保に努めるとともに、勤務調整や変更協力について、職員には事前に了承をいただき対応している。1カ月単位の変形労働時間制により対応。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	過去数人の離職者がありましたが、ご利用者様には理解を得られる内容で十分な説明を行い不安感やダメージについては最大限の配慮を行っている。ご利用者様個々に納得され、又、喜んで離職者等お送りいただけるような説明方法について職員間で協議を行い、全職員が共通認識の下で説明を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○	新入職者や中堅従事者、指導的従事者毎に職場外研修と職場内研修を体系的に進めるべく関係職員配置と予算措置を含め運営者と協議し「事業は人なり」を基本に効率的な研修計画を検討中
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○	現在は、徳島県老人福祉施設連絡協議会に加入し情報交換会や各種研修会に参加し、新しい情報収集に役立っている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	○	運営者と管理職、職員との合同による親睦会等を開催し、意見交換の機会確保と夜間勤務の不安解消策として各ユニット毎に夜勤職員1名を配置している。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		職場内での指導を通して、介護業務従事者の誇りや、やり甲斐について管理者・主任等が各スタッフとの意見交換を行い職場における自信や充実感を持てるよう声かけを心掛けている。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		初期の出会いから担当介護者を選任し、表情や行動に細心の注意を払いできるだけ早期にご利用者様の人となりを把握、相互の信頼関係構築に努力し、話しやすい雰囲気や環境に細心の注意を払っている。担当介護職員や他のご利用者様との馴染みの関係づくりに早期に取り組み、話しやすい環境づくりから信頼の構築を行っている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		初期の面会時よりご家族様の思いや今後の希望、ご利用者様に対する思い等を時間をかけてしっかりと聞き聞かしている。継続的な関わりとして、ご利用者様の生活の様子のお手紙の中でも気軽にご連絡をいただけますよう担当介護職員からご家族様へお願いをしています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容に応じた、フォーマル及びインフォーマルサービス等の地域資源についての説明をさせていただいている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入所等を取り入れ家族同伴での体験入所により徐々に馴染みながら自然に利用いただけるよう工夫している。入居当初は、家族の宿泊(希望)により環境に慣れさせることと他の入居者(職員)との関係作りを重点におき本人の希望(要望)ができるようになるまで様子を伺いながら、自然に入居のスタイルを取れるよう利用者毎に工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家庭的な環境の中で、常にご利用様が主役の生活を心がけ、さりげない支援により楽しい共同生活を維持できますよう本人の目線にたった支援を心がけている。	○	個々のご利用様が、共同生活の中でそれぞれの役割を担い、場合によってはさりげない職員の支援を得ながら、また、ご利用様に職員が御指導いただきながら日々の生活を楽しんでいただける居住空間を目指しています。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と一緒に入居者様を支えていただく継続的な関係づくりを心がけ、毎月のお手紙の中でも一方通行の報告に留まらず、ご利用者様の生活歴等からヒントやアドバイスを求め共に支えていただく関係づくりを心掛けている。	○	面会機会の少ないご家族様については、担当介護職員が一方通行の介護にならないよう、ご家族様と共に関わっていただくための信頼関係づくりが課題となる。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご利用者様とご家族様が家族会や行事等を通じて、また一時帰宅の機会を通じてよりよい関係の維持が図られるよう協力支援に努めている。	○	お盆、正月時の帰省ができないご利用者様については、ご家族様との外出機会の協力を働きかけていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの家具、家族写真の持ち込みや従来からの知り合いの面会について、御協力をお願いしている。	○	馴染みの場所へは、ご家族様の御協力もいただきながら外出訪問の計画も検討していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常会話や家事分担についても孤立されないように、さりげないチーム編成を心がけ、また食卓の席替え等にも配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的な関わりを望まれるご利用者様やご家族様とは、連絡をとりながら継続した関係を保っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を導入し、ご利用者様の過去の生活歴をも含めた暮らしぶりやこれからの本人家族の意向についても十分事前調査を行い本人主体の意向把握に努めている。ご本人から望まれることをその都度聞くようにしている。要望を伝えることが困難な方には、ご家族の方に情報や気付きをいただくよう工夫をしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様の御協力をいただきながらご本人様の生活史や馴染みの把握に努めている。	○	センター方式の完全導入を検討。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センター方式のD-4用紙の活用により日常生活の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を活用し、ご本人様と家族様の意向を聞き取り全職員の気付きを取り入れ、計画に反映している。ご本人がより良く過ごしていただけるよう、ご利用者様本意の計画になるよう、その時点の現状を見極めて計画作成に取り組んでいる。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の生活の中で小さな変化をも見逃さないよう記録を残し、全職員が心身の状態の変化を把握し必要に応じてご家族に現状を報告、ご本人様とご家族様の意向を聞き見直し計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式D-4用紙の活用及び申送りにて日々の介護に役立っている。申送り及びD-4用紙・業務申送り・経過支援用紙を活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	馴染みの生活の中で自分らしく、穏やかに過ごしていただけるよう、自分のできる事を支援している。生きがいをもっといただけるよう、趣味を活かした作品作りをし、もみじ工房として、地域の観光店舗にて販売に繋げている。生き生きとした姿をご家族の皆様に喜んでいただいている。	○	趣味のない方にも生きがいを持っていただけるよう、全員のご利用者様が生きがいをもって生き生きとした生活ができるように支援することが課題である。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	もみじ工房での作品づくりと地域資源である観光地の物産館での作品販売収益事業を行い地域資源を活かした生きがいづくりに貢献している。	○	販売収益の高配分を目指した新商品の開発をご利用者様と一緒に考え、意欲の向上を目指す。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人の希望により、毎月1回の理学療法士による身体機能の維持向上の為の機能訓練指導(無料)実施。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議メンバーとして地域包括支援センター職員に関わりをお願いしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様のかかりつけの医療機関への受診支援を個別に対応しており、適切な医療受診を行っている。		歯科診療については、過疎山間地域のため、定期健診も含め施設まで往診に来ていただく等の支援を受けている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要なご利用者様については、管内の専門医に定期受診の支援を行っている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職は現在配置できておらず、協力医療機関の医師の指導支援をいただいている。	○	看護師の配置を検討中。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院に際しては定期的に状況把握に病院に出向き、情報交換と退院時の支援についても病院関係者や家族との連携を密にしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化になられた場合、医療機関、ご家族との連絡を密にし、ご本人の意向に添えるように支援しているが、医療行為ができない旨をご家族に理解していただき、医師の指示に従うようにしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現状では、医療行為が必要なご利用者様への対応の限界がある。	○	24時間体制による看護師等の専門職の配置検討が必要。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	関係情報については、全て提供し戸惑いや不安の防止軽減に最大限の協力を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に本人やご家族の視点にたって、適切な呼び方に心掛けている。居室に入る時は声を掛け承諾をもらって入室するように心掛けている。日々の記録簿は人前に置かないよう配慮している。また、個人情報の書類については事務室の施錠付きロッカーに保管している。	○ 言葉掛けについてご利用者様の心が暗くならないよう、明るくなるような言葉掛けでの対応を職員間で徹底していききたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ゆとりを持ってご利用者様のスピードにあわせ、ゆっくりやさしく説明し、自己決定の支援を徹底していきます。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の流れはだいたい決まっているので、一人ひとりのペースで生活していただけるよう心掛けている。また馴染みの生活が楽しめるよう、ゲーム、体操、散歩、趣味、等を取り入れている。	○ その人らしい生活、希望に添った生活が送れているかどうか、理解を深めるために一人ひとりの方とゆとりを持って接し、希望に添った支援、その人らしい生活の支援をしていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみやおしゃれに関心のあるご利用者様には洋服のコーディネートの助言や称賛の言葉をかけて喜んでいただき、対応可能な希望の理髪店への送迎支援をしている。	○ 過去の記憶に立ち返る療法の一環とした化粧療法の導入も検討の余地がある。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を献立に採り入れ季節感を楽しんでいます。食べたいメニューがあれば献立を変更して、要望に答えるようにしている。調理の下ごしらえ、味付け、盛り付け、食後の食器洗い、食器の片付け等職員と一緒にしている。	○ 調理の下ごしらえ、味付け、盛り付け、食後の食器洗い、食器の片付けをしていただける方が徐々に増えるよう支援していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	タバコ・飲み物・おやつについては状況に合わせてできるだけ日常的に楽しめるように心掛けている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレ内での排泄を基本に排尿・排便チェック表でパターンを把握し、声かけし誘導等による気持ちの良い排泄支援を心がけている。	○	排泄パターンの把握に努める。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴回数、時間、順番はご利用者様の意向により決まりました。時にはご利用者様の都合、体調により変更することがありますが、そ都度、希望を取り入れ入浴が楽しめるよう心掛けている。入浴を拒む人に対しては、理由を尊重したうえで、言葉掛けを工夫し職員の連携プレーで気分良く入浴していただけるよう支援を心掛けている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	センター方式の利用によりご利用者様一人ひとりの理解を深め状況を把握し、その時々においてさりげない支援を心がけている。くつろいでいる時に馴染みの飲み物を出し、ほっとした一時を過ごしていただけるようにしたり、清潔な布団で心地よく安心して眠っていただけるよう支援をしています。	○	今後も全職員がご利用者様一人ひとりの方を理解し、安心して気持ちよく生活していただけるよう、センター方式に取り組んでいきたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の意思を尊重し、無理のないよう食事の準備、食後の片付け、洗濯、掃除、等の家事を手伝っていただけるよう工夫をしている。趣味を活かし様々な制作にも取り組んでいる。趣味を活かした作品を施設内に飾ったり、地域の観光店舗にて商品として販売をし、わずかな利益につなげているため、作品作りが意欲になっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできるご利用者様にはご本人に持っていていただくが、お金の自己管理ができないご利用者様に対しては、ご家族様の要望により担当職員が管理をし、必要に応じて自由に使えるよう支援をしている。	○	今後ショッピング、外食の機会を積極的に取り入れていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	戸外へは天候の良い日には散歩に出かけ季節を楽しんでいます。近隣小学校の行事、運動会等にも参加するなど近隣の方々との関わりを楽しめるよう支援をしている。外出は希望に添ってショッピング、外食を兼ねて四季を味わえるよう支援をしている。	○	今後ショッピング、外食の機会を積極的に取り入れていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	当施設は過疎の山間地域にあるため、ご利用者様の外出場所は限られているが、四季を感じる外出を兼ね、ショッピング、外食を楽しめるよう支援をしている。ご家族の方との外出も自由に楽しめるよう支援をしている。	○	今後ショッピング、外食の機会を積極的に取り入れていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の要望により電話の使用、手紙のやり取りを自由にできるよう配慮している。また、ご利用者の依頼により職員が手紙の代筆も行っている。	○	今後もご利用者が気兼ねをすることなく家族や知人の方とのやり取りが自由にできるよう支援をしていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家庭の訪問者と同様に訪問客に対し失礼のないよう丁寧に配慮し、訪問して良かった、また訪問したいと思っていただけるように気配りをした接客マナーを全職員が心がけている。	○	今後もご利用者の大切なお客様ということを念頭において両者が満足できる対応に心がけていきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当施設においては身体拘束は一切ないが、身体拘束について正しく理解するために、全職員が職場内研修で正しい知識を身につけている。	○	今後も身体拘束のないケアを目指していく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠をせず、開放的な空間で生活していただけるよう心掛けている。一人で戸外へ出るご利用者様には、職員がついて出るようにしている。夜間については外部からの侵入のことも考え安全のために玄関には施錠をしている。今後もご利用者が快適に過ごしていただけるよう、日中は居室は勿論、玄関にも施錠をしないで夜間の時間帯のみ玄関は施錠をする。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	全職員が常にご利用者の状況を把握し、職員間の連携プレーにより様子や所在を確認して安全に気を配っている。	○	安全に配慮する上で、常にご利用者の立場で、プライバシーを損ねないよう職員間で研修をしていきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物類は使用後目につかない場所、薬剤は事務所に保管している。刃物や針、アイロンを使用されている時には見守りをして安全に気を配っている。	○	常にご利用者の状況を把握し、適切な支援を心がけていきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	全職員がご利用者の心身の状態を把握し、個々に応じた支援を心がけ不慮の事故を未然に防止するようにしている。	○	今後は、事故を未然に防ぐ諸方策並びに事故後の迅速かつ適切な対応について研修し早期に取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生時の対応についてはマニュアルにより対応手順や役割分担を行っている。	○	専門職種の指導により応急処置、応急手当についての講習を検討中。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回消火訓練、年2回避難訓練を行っている。消防団の協力を得て実施している。	○	地域の人々の協力が得られるよう連携組織づくりに取り組みたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	生活の中で起こりうるリスクについてご家族様に話している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック、排尿管理、食事管理、などの記録を参考にし変化があれば医師に相談するようにしている。	○	専門職種の配置について検討中。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は全職員が行い、薬について理解している。誤薬のないよう再確認を行うようにしている。症状の変化についてはその都度全職員に明確に申し送りで伝達し確認をしている。	○	専門職種の配置について検討中。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取と食材に工夫し体操と散歩を日課に取入れ適度な運動を行うようにしている。時には医師に相談をし支持に従い健康管理に配慮している。	○	栄養士の指導のもと、食生活改善に取り組んでいく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯科医師又は歯科衛生士の指導により、食前の誤嚥性肺炎予防のため口腔ケア体操や食後の口腔内の清潔保持のためのケアを行っている。	○	専門職種の講師に今後も指導を仰ぎ口腔ケアの重要性について知識、意識の向上に努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの水分量、食事の量を記録に残し、その人に合った摂取量、好みを把握し、盛り付けに工夫をし、完食ができるよう支援をしている。一人ひとりの好み、量に応じ、完食できる満足を味わっていただけるよう配慮している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルに添って迅速に対応できるよう職員間の研修に順次取り組んでいる。インフルエンザは予防接種を受け対応している。また感染予防の為にマスクの装着、手洗い、うがい等を徹底している。	○	専門職種の講師指導により、より高度な知識の習得につなげるよう講習会を検討中。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は消毒、布巾は煮沸をし衛生面に気を配っている。食材は冷蔵庫を過信しないで、新鮮な物を使用するようにしている。	○	食中毒予防のため、できる限り生ものを使用せず、熱処理をするようにしている。調理器具の消毒については、定期的に行っているが、点検を明確にするように取り組みたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関出入口にはベンチを設置し、玄関にはご利用者様が作られた作品を飾るなど親しみやすく、ゆったりと過ごせるよう工夫をしている。玄関の周辺には四季折々の花を植え玄関出入口が憩いの場になるよう工夫をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはソファ、畳みの間には掘りコタツ、廊下には長椅子を設置し、思い思いにゆったり過ごしていただけるようにしている。窓からは、四季折々の草花が眺められるよう工夫している。四季折々の草花を室内に飾り季節感が味わえるよう工夫している。台所の音、匂いは生活感を味わえるように工夫している。その他生活の臭いがでないよう、清潔を心掛け掃除をこまめに行っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関と玄関前にはベンチ、リビングにはソファとテーブル、畳みの間には掘りコタツ、廊下には長椅子を設置しご利用者様が思い思いの場所でのんびり過ごせるよう工夫をしている。安心してくつろげる居場所となるように工夫をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様とご家族様が相談をして、使い慣れた物を持ち込んでいただき、安らぎがあり落ち着きのある部屋になるように工夫している。ご利用者様が安心して過ごせるように、ご家族様に昔馴染みの物を持ち込むようにご理解と協力をいただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	室温計、湿度計をリビング、廊下、各居室に配置して適温、適湿度を保つようにしている。共用スペースにおいては個人差もあるが、適温、適湿度を重視している。ご利用者様の居室については個々の要望に応じている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	平屋造りでバリアフリー、要所への手すりを設置、床面には弾力性のある素材を使用し安全面に工夫されている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレ、風呂の入口には貼り紙をし、居室入口には名札をつけたり飾りをしている。	○	家庭的な雰囲気になるように配慮をすれば貼り紙についての工夫が検討される。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑、花壇があり四季折々の野菜や花を育てている。ベランダでは日向ぼっこができるように工夫している。	○	山間寒冷地で冬季には雪が降り、ベランダでの活動ができないため冬季期間中に楽しめることを模索中。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)